魚野川　万太郎谷・井戸小屋沢

メンバー:白土(L)、山本、熊崎、
三井(記)
遡行日:12年8月25日～26日

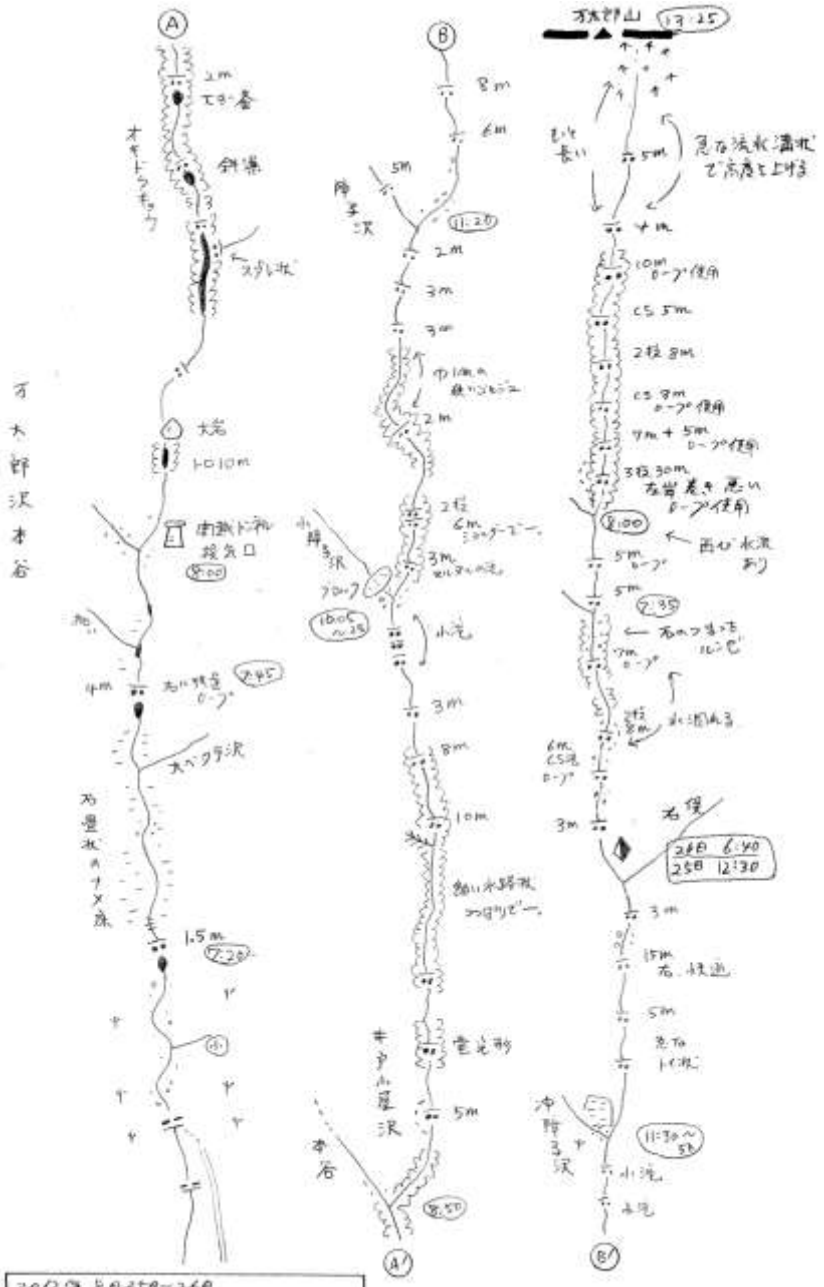
谷川の秀渓、万太郎谷には気になる支流が何本かあるが、今回の井戸小屋沢は遡行価値から言えばその筆頭といえる。
上流部で二俣に別れ、通常は右俣が遡行され日帰りで楽しめるが、左俣は滝が連続して更に面白いらしい。という事で1泊2日の行程で左俣に行く事になった。

万太郎林道のゲートの手前に何かの施設があり、その前の空き地にテントを張り前泊。
翌朝、支度を済ませると車を後にする。この夏は天気に見放されていたが今回は良さそう。気分良く林道を辿り大きな堰堤の所から本流に入る。
先行のパーティーが支度をしていて本谷の遡行との事。(先にもう1パーティーが本谷に入っていて、さすが人気の沢だね。)
暫く行くと石畳状のナメ床。万太郎沢の綺麗なところを味わいつつ先に進む。魚止めの滝を越え、右に関越トンネルの排気口を過ぎると「オキドウキョウ」のゴルジュ。
右岸を首まで浸かってヘツる。途中で僕と山本さんは左岸を巻いたが、白土君と熊崎君はそのまま通過した。
オキドウキョウを過ぎた直ぐのところで左岸側に流入しているのが「井戸小屋沢」。思ったより貧相な出合いだ。
沢は小さめで、スラブのつるっとした岩質で、そこに小滝が落ちていて滑りやすく、別に困難ではないものの登りにくい。
細い水路状のゴルジュをつっぱりやら際どいへつりなどして通過していく。
記録通り次々と滝が現れる。小滝や5.6m 位のものが多いが一見して難しいものもないがそう簡単でもない。
小障子沢の出合いにはブロックが残っていた。
その先の3m ばかりの小滝がヌルヌルで梃子ずる。その上に2段6m の滝。ショルダーで何とかクリア。
巾が1m ほどに狭まったゴルジュを通過し、「障子沢」「沖障子沢」と枝沢を分けると15m ほどのなかなか立派な滝。
水流右から快適に直登できる。そこから少し進んだところが右俣、左俣を分ける二俣だった。
まだお昼を過ぎたばかりで時間的には早いのだがそこを過ぎるとテン場はないらしい。
左俣側の沢床に狭いがスペースがある。時間もあるし整地して広げればいいだろう。
群生しているイタドリを刈り取ってそれを敷き詰めテン場が完成したが以前、白土君と行った朝日の何沢だったかそことよく似たテン場で、ついそのテン場で起きた事が思い出される。(その時は夜半から大雨になり、急激に増水し、油断していたため装備の半分を流される、という大失態を起こしてしまった事は僕の決して消えない記憶で残っている。)
まー、今日は天気もよさそうでそんな

事にはならないと思うが気をつけよう。
余り流木もないが、それでも4人で手分けして集めて一日分を確保する。
焚き火がおきるとその周りにどっしりと腰を下ろし、リラックスタイム。
正面には万太郎谷を隔てて茂倉岳が大きく聳えている。素晴らしいロケーションだ。それ眺めつつ缶酒を片手に話しに興ずる。
還暦を過ぎてなお、こういう場に身を置く事が出来る幸せを心底感じる。

快適な夜があけ、早々に支度を済ませテン場を後にする。
沢巾が狭まり、一旦水流も涸れて源頭の雰囲気すらあってここから面白くなる、というのが信じられない。が、心配は無用。やはり滝が次々と現れ、それらを登るために空身になったり、ショルダーで越えたり、と工夫と度胸を必要とするし、ロープの確保も必要となる。
やがて核心の3段30mの滝。
一段目は狭い凹角の滝で、落ち口が少し被り気味。ここはセオリー通り右岸の巻きとすべきだろう。
ルンゼを少し登り、白土君がロープをつけ急な草付きを岩壁の基部に沿って斜上する。上部の潅木まで達したところでピッチを切って後続が登る。
ラストの熊崎君がそのままトラバース気味に落ち口に向かい大滝を越える。
大滝の上は7mと5mの連瀑。
ここも厄介らしいが今回はここまで殆どリーダーの白土君がリードしてきた。
僕としてはこのまま白土君任せでは気がひけるし、一箇所でも自分がリードしないと登った気にはならない。
なによりやるときゃやらないとね。
「ここは僕が行くよ。」と言いつつロープをつける。
滝の中ほどに腐ったようなスリングが垂れている。スリングを架け替え、スリングアブミで身体をズリ上げクリア。
ここを越えればもう滝はないか、と思ったらまだ滝は次々現れ、何気に梃子ずる。流石に滝はもう結構、という感じ。
10mの滝をロープをつけて越えると漸く沢は流水溝状の細いものになり両岸のボサやスズタケを引っ張ったり掻き分けたりしながら高度を稼いで行く。
稜線が近づくにつれ傾斜がきつくなりボサがなくなるとひょっこりと登山道に出た。万太郎山の頂上直下だった。
やれやれ終わった。頂上で大休止。
沢の装備を外し、ズックに履き替え「さて下山。」
吾作新道の急な登山道はヒザに負担を掛けるのでよろしくない。今回は下山用のストックを忘れてしまったので僕は時間を掛けてゆっくり下らせてもらった。

「井戸小屋沢」はネットで見てみると右俣を日帰りで、という記録が殆どだ。しかし、今回左俣を遡行して断然左俣が面白い事を痛感した。
もし井戸小屋沢に行くなら1泊2日で左俣に行く事をお勧めします。



2012年 8月25日〜26日
谷川 万太郎沢 左俣、井戸小屋沢 右俣

谷川　井戸小屋沢
平成 24 年 8 月 25 日～26 日
メンバー : 白土 (L)、三井、山本、熊崎（記）
白土さんから沢のお誘いを受け、お互い前から行きたかった井戸小屋沢に決定。白土さんがメンバーを募集したところ、三井さんと山本さんも参加することになった。前夜、土樽から万太郎山登山口方向へ林道を進み、鎖の張ってある所まで行くが、いまいちなので戻って沈砂池施設前の広場に駐車、テントを張る。

8 月 25 日（土）晴れ
翌朝、テントを撤収し、沢靴を履いて出発。左岸沿いの林道をしばらく進み、大きなスリット堰堤から入渓。しばらく河原を進むと、白い岩畳が現れ、透き通ったエメラルドグリーンの水がとてもきれい。最近あまり雨が降っていないのか、水量は少なめ。いくつか小滝を越えていくと関越トンネルの空気孔、そこから少しでオキドウキョウのトロ。右岸を巻けるようだが今回は水流沿いに行く。右岸の岩壁沿いをへつり泳いで、途中で左岸側に少し泳いで渡る。さらにトロ場は続き、奥の方は、一見、両岸ともホールドが無さそうに見えるが、右岸側からへつり泳ぎで進んでみると、足が底に付き、意外に浅い。その上の小滝は幅が狭く、激流の中のシャワークライムで楽しい。そこから少しで井戸小屋沢の出合。元々の予定では、今日は小障子沢出合で泊る予定で、朝出発すれば昼前にはついてしまうので、途中で釣りでもしながら登るつもりだった。でも、ここまで期待した魚影は全くなく、釣りは諦めてそのまま井戸小屋沢に入る。出合から次々現れる小滝を越えていくと、7m2 段滝が現れ、左から巻く。この後、ひっきりなしに小滝が出てくるが、全て水流沿いを快適に登っていける。天気も良く白い花崗岩の滝を登っていくのは本当に気持ち良い。やがて遠くに小障子谷の V 字状の谷が見え、その底には大きなスノーブリッジがかかっているのが見える。本流に無ければ良いがと少し不安になる。出合の下流左岸側には細かい砂礫が堆積していてなんとか泊まれそうではあった。本流に入ると、すぐ核心の一つと言われる 3mCS 滝となる。水流右のぬめった斜上

クラックを辿って登れそうだが、クラック以外はホールドスタンスが乏しく難しい。ザックを背負ったままトライしていたが埒が開かず、白土さんが空身で突破、補助ザイルを出してもらう。すぐ上の6m2 段 CS 滝は記録では右岸の草付を巻くとあり、実際踏み跡があった。自分も巻きかけたが、白土さんが水流沿いに突っ込んでいったので、そちらに変更。三井さんのショルダーで白土さんが突破する。上段はもろに水流を浴びる。浅いゴルジュが続き、周りは立木のない草付の急斜面だが、遡行自体は難しくなく出てくる滝を次々直登していける。多段の滝で合流する沖障子沢を過ぎ、30 分程登ると 20m の大きな滝が現れる。高さはあるが、水流右を簡単に登れて爽快。標高 1200～1250m 付近は等高線の間隔が広く、テントが張れそうな所が無いか探しながら進む。と、ちょうど良い大きさの砂地を発見。増水には耐えられないが、すぐ傍の大岩に登って避難はできそう。三井さんと白土さんがさらに上流に行って偵察したところ、二俣にも似たような場所があって何とか張れるということで、そちらに移動してみる。こちらも増水したらアウトだが、二俣の間の尾根に逃げられる。さっそく、砂利を均して草を敷いてテン場を造成、薪は少ないがなんとかかき集める。まだ全然明るいが、焚き火を起こし、対面の茂倉岳、一ノ倉岳を眺めながらまったりと過ごす。

【タイム】沈砂池施設前 6:40、スリット堰堤 7:05、井戸小屋沢出合 8:45、小障子沢出合 10:00、沖障子沢出合 11:30、二俣 13:30

8 月 26 日（日）晴れ

翌朝、出だしから小滝をどんどん越えていく。右俣に比べ水量が少なく、今にも涸れそう。7mCS 滝は水流右側の凹角から巻く。5m 位の滝は白土さんが直登しようとするが渋そう。水流右側を登って上部を右の岩から巻いてアシストする。右に支沢を分け、どんどん登っていくと、目の前に高さ 50m 以上の岩壁が立ちはだかる。一瞬、これを登るのかと不安が過ぎるが、沢はその基部を左に上がり、その岩壁の裏に 3 段 30m 滝を掛けていた。手前で合流する左のルンゼを 10m 程登り、白土さんトップで滝の左側の急な草付に取付く。滑り

やすく気が抜けない。急な草付を抜けると、岩混じりとなる。途中に残置ハーケンが 1 本あった。2 段目の上あたりまで 50m いっぱい延ばす。つるべで自分が 2P 目を登る。滝に向かってバンド状を潅木を掴みながらトラバース、3 段目上部の左壁に出て、少し登ると落口にでた。すぐ上はゴルジュとなっていて、面倒臭そうな 2 つの滝が見える。手前の 5m 滝は黒く泥っぽい垂直の壁で、よく見ると残置シュリンゲがかかっていた。三井さんがトップで登る。シュリンゲに足を掛けて登れるが、その上に良いホールドが無く、少し強引に登る。すぐ上の 4mCS 滝は最初水流左側の壁を登ろうとするも上部が良くないので、右側の岩を登る。出だしが外傾していて嫌らしい。これを越えるとすぐ上に滝が２つ見える。手前の 4mCS 滝は白土さんが補助ロープを出して大股開きで越える。次の滝は水流右側を登る。これで終わりかと思ったら、今度は３つ滝が連続している。1 段目の 2m 滝は簡単。2 段目 5m 滝は水流沿いを補助ロープを出して登るが細かく嫌らしい。3 段目 10mCS 滝は傾斜はそれ程でも無いが、滝全体が褐色のぬめりで覆われていて、岩も脆いので気が抜けない。白土さんトップでザイルを出して登った。一連の CS 滝などの登りでは小さめのカムが役に立った。この滝を越えるとようやく沢が開け、ナメ状の滝が連続するようになる。時々後ろの展望を振り返りながら、快適に高度を上げる。やがてガレ場を登り、笹薮に突入。でも沢型は明瞭で薮は浅い。薮を抜けて最後の急な草付斜面を登りきると登山道に出た。すぐ上に万太郎山の頂上が見える。頂上へ行って沢装備を解く。谷川岳～仙ノ倉岳の国境稜線が見渡せ爽快。辿ってきた井戸小屋沢を見下ろしながら吾策新道を降りる。登山道が万太郎尾根を外れて右の斜面を下り始めた時、左肘にチクッと痛みを感じて、見ると小さな黒い蜂が周りを飛んでいる。地蜂？何か悪いことしたかなあ？後で聞くと、山本さんも刺されたらしい。帰った後、左肘はパンパンに腫れ上がってしまった。

【タイム】

二俣 6:40、3 段の大滝上 9:20、稜線 13:20、万太郎山 13:35、沈砂池施設前 17:00。

6m2 段 CS 滝

3 段 30m 大滝

下部の明るい渓相

大滝上の 5m 滝

20m 滝

10mCS 滝